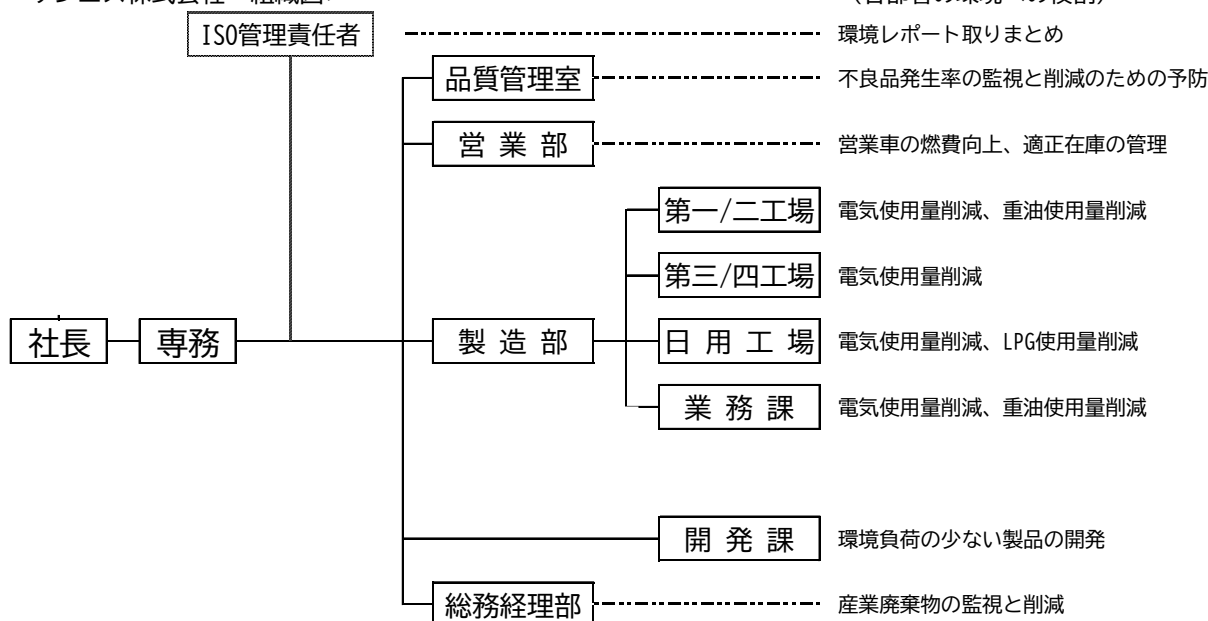


サンエス株式会社 2024 年 環境レポート

1. 会社概要

商号	サンエス株式会社
業種	工業資材用燃糸加工及び樹脂加工、工業用縫糸製造販売
所在地	〒923-0302 石川県小松市符津町ソ 62 番地
会社設立	昭和 24 年 6 月 27 日（創立 75 周年）
資本金	2,000 万円
従業員	47 名（パート含む）

<サンエス株式会社 組織図>



2. 対象範囲・組織・役割分担

対象範囲はサンエス株式会社の本社およびすべての工場

本社及び本社工場 石川県小松市符津町ソ 62 番地

第3工場 石川県小松市符津町オ 63 番地、オ 50 番地

第4工場 石川県小松市符津町ソ 66-3 番地

日用工場 石川県小松市日用町巳 161 番地

3. サンエス株式会社 環境経営方針

汚染の予防及び環境保護のため、以下のテーマを定めます

- (1) 地球温暖化防止と生産効率の向上のため、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- (2) 不良在庫及び工程内不適合品の低減に努めます。
- (3) 廃棄物の削減及び適正処理、リサイクルの推進に努めます。
- (4) 環境配慮製品の開発、製造、販売に取り組みます。
- (5) 購入原材料及び事務用品のグリーン購入に取り組みます。

4. 長期環境目標の設定

	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年
①CO2排出量の削減	1.21	1.18	1.16	1.13	1.11
②廃棄物（不良品）の削減	0.76%	0.72%	0.69%	0.67%	0.63%

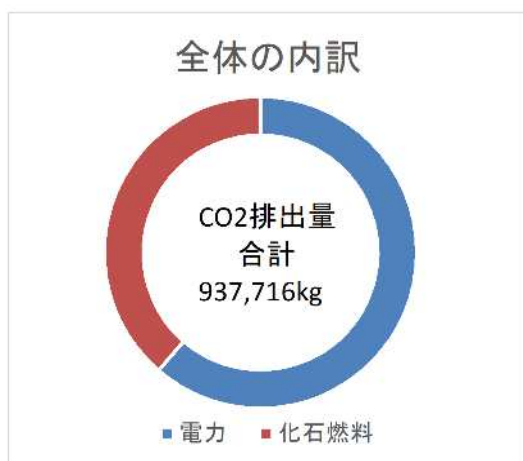
①CO2の総排出量を、その年の総生産量で割った数値を指標にする

②不良品によるロス（廃棄物）をその年の総生産量で割った比率を指標にする

5. 環境目標と実績（2024年）

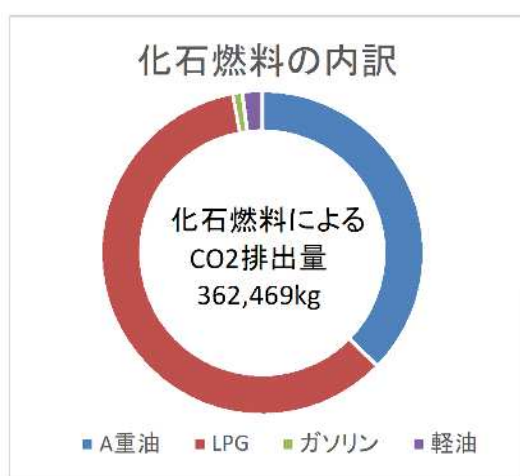
	2024年目標	2024年実績	評価と次年度への取組
1 CO2排出量の削減	1.57	総排出量 937,716kg 総生産量 764,090kg → 1.23 目標達成。	2025年度については引き続き電気量の使用効率に留意する。
生産量 1kg 当たりの電気使用量	生産量比で昨年実績より 1%削減 (1.492kWh/kg)	1.565kWh/kg (昨年対比 3.8%増加) 未達成	特殊要因として外注工場の内製化による使用量増加があった。
生産量 1kg 当たりのLPG使用量	0.39kg/kg	0.358kg/kg (昨年対比 9.1%削減) 目標達成	使用量減少により目標達成。 2025年度についてもLPGの使用効率に留意する。
重油使用量 (CO2量/(第2+第3工場生産量))	0.31(kg-CO2/kg)	0.298(kg-CO2/kg) (昨年対比 23.2%削減) 目標達成	目標達成。 2025年度も引き続き生産量増加と排出量低減を目指す。
②廃棄物（不良品）の削減	生産量比 0.47%	生産量比 0.79% 大幅未達	ロスの多い工程を中心に異常発生.analysisを行い、発生原因の多いものから対策を行う。
③環境負荷物質の監視	2023年実績	2024年実績	評価と次年度への取組
キシレン	2023年 3,196 kg	2,501 kg	溶剤使用品種加工が減少したため使用量も減少した。
エチルベンゼン	2023年 4,931 kg	3,622 kg	
DMF	2023年 11,907 kg	9,453 kg	

2024年度二酸化炭素の排出量割合について



電力	575,247 kg	(61.3%)
化石燃料	362,469 kg	(38.7%)

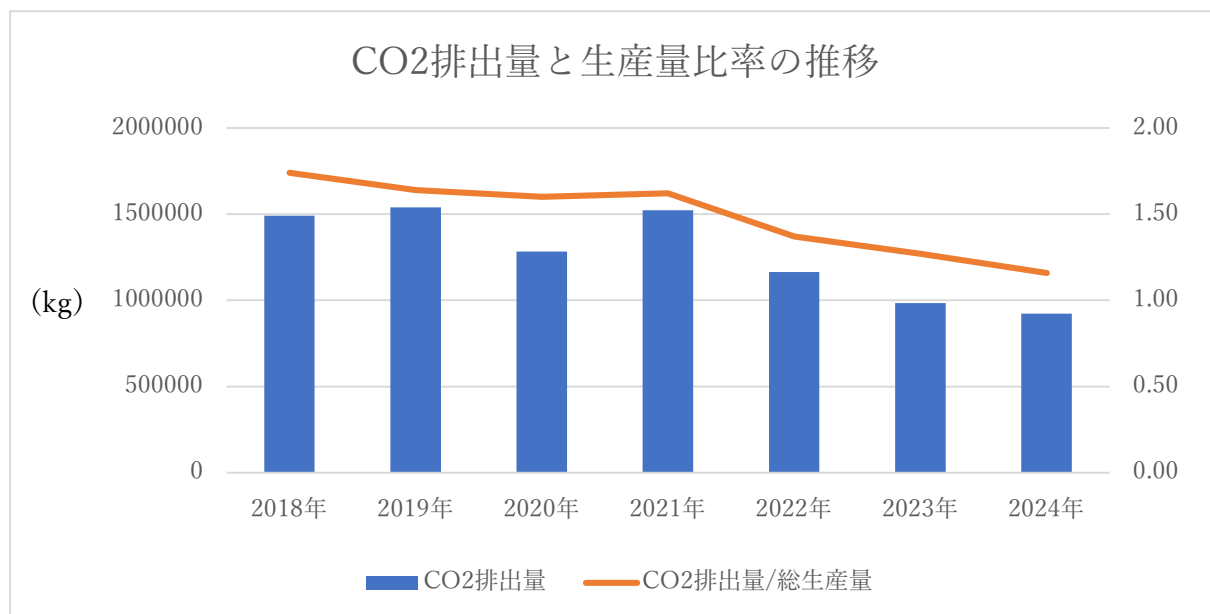
全体のうち電力が61.3%とやや多くなっています。



A重油	135,482 kg	(37.4%)
LPG	216,284 kg	(59.7%)
ガソリン	3,506 kg	(1.0%)
軽油	7,197 kg	(2.0%)

化石燃料の内訳ではLPGが59.7%と大きな割合を占めています。

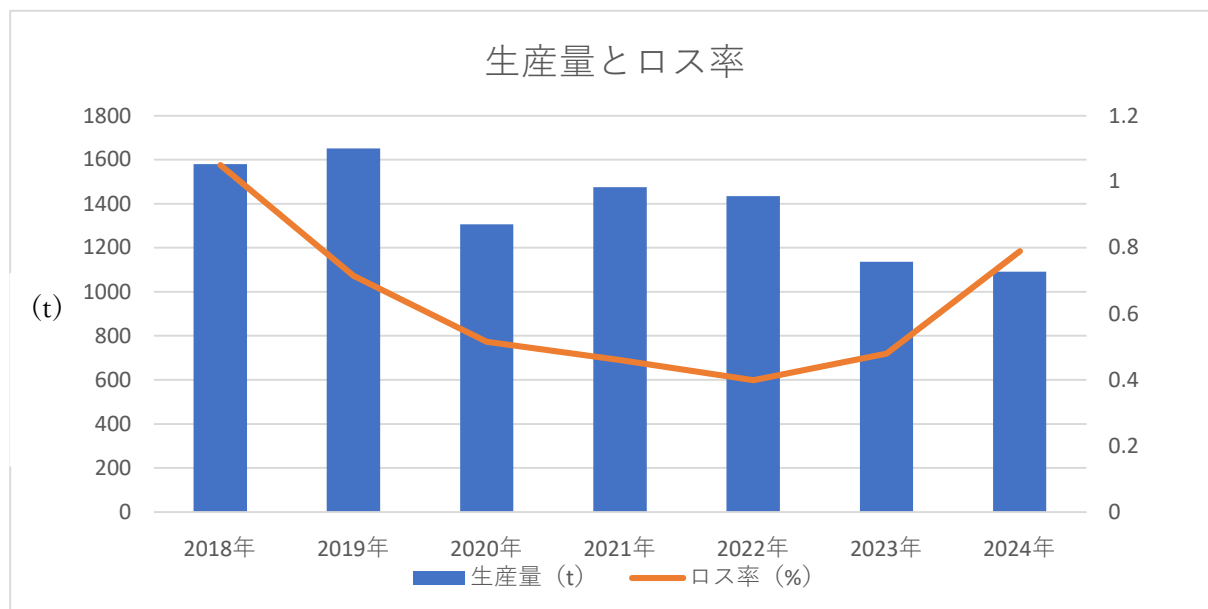
全体としてCO2排出量の割合の少ないLPGの使用が多くなっており、環境に配慮したエネルギー使用を行っています。



2024年度は、電気使用量は協力工場の一社を自社に組み込んだために使用量が増えましたが、電気式空調を井水利用の水冷式空調に変更した効果で増加幅は抑えられました。生産量の減少もありLPGの使用量が減ったため、製品あたりのCO2発生量は減りました。

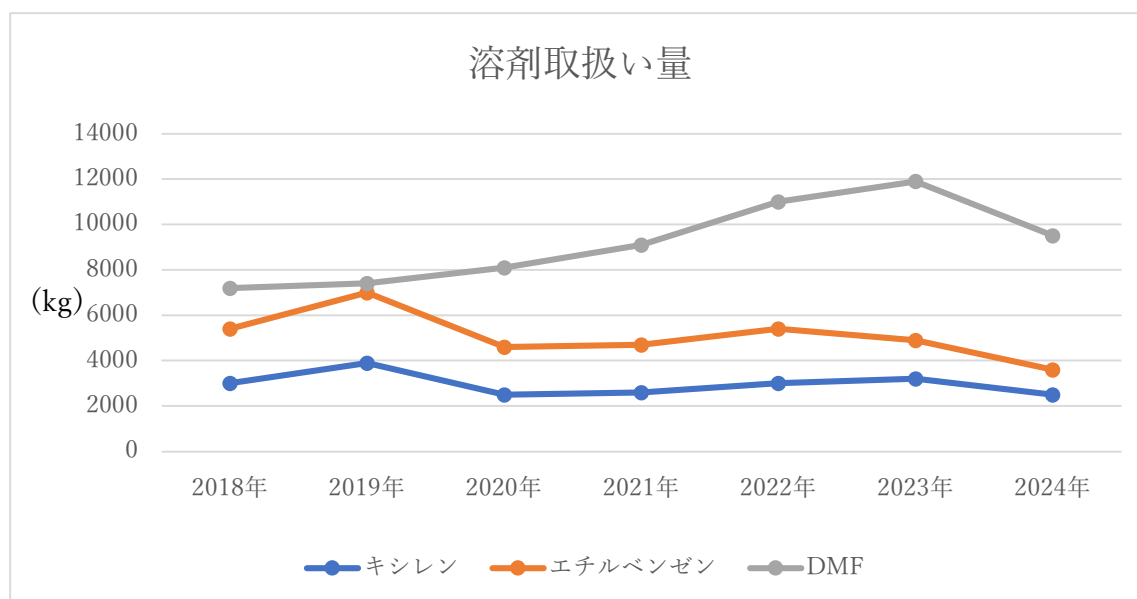
(2021年度以降総排出量は減少傾向にあります。)

②ロス発生量の推移



それぞれの工程でのロス発生について改善を行ってきましたが、ロス率の減少が頭打ちとなってきており、2024年度は加工機の経年劣化による不具合もありロス率は大きく増加に転じました。今後の対策強化として機械のメンテナンス強化に加え各部署でのロスの多かった原因、工程を集中的に分析しロス率の低減に努めます。

③環境負荷物質の監視



新規の開発案件については、水系溶剤樹脂を主体に開発する方針です。

6. 産業廃棄物の実績

項目	2022年1月～ 2022年12月	2023年1月～ 2023年12月	2024年1月～ 2024年12月	処理方法	備考
繊維くず	13.48 トン	なし	なし	固形燃料化	糸付紙管が廃プラ扱いとなり減少した
廃プラ	15.40 トン 2.45 トン	27.23 トン	28.11 トン	破碎・圧縮固 化 破碎	糸付紙管の規制が厳しくなり、繊維くずではなく廃プラ扱いとなり、固形燃料化から破碎・圧縮固化に変更になった（23.7月より）
廃油 樹脂混合	4.33 トン	4.69 トン	4.27 トン	焼却	
廃油	1.70 トン	1.29 トン	1.16 トン	焼却	
引火性 廃油	6.97 トン	8.66 トン	6.76 トン	焼却	
金属くず	なし	なし	なし	圧縮再利用	
木くず	1.78 トン	3.44 トン	2.5 トン	破碎	
廃ランプ	なし	なし	なし	破碎埋立	2020年に蛍光灯をLED化したので今後発生しない。

7. 環境関連法規等の遵守状況

環境法規制等の名称/略称		適用範囲	適用条件	適用	実施	文書・記録(例)	順守確認(結果)	
					手続き・順守事項	【有資格担当者】		
環 境 法 規 制								
廃棄物処理法 Waste Management and Public Cleansing Law	産業廃棄物の委託処理	本社、日用工場 専ら物(有価物)	繊維くず、古紙、金属屑	○	委託基準 委託先の再生業の許可の確認	・許可証の確認	○ 許可証確認済	
				○	委託基準 1. 委託先の許可確認	・収集運搬及び処分業者の許可証の確認 ・中間処理場等の現地確認	○ 許可証確認	
				○	委託基準 2. 委託契約の締結 3. 契約書の5年間保存	・委託契約書の内容確認(委託金額、産業廃棄物の種類、性状、性状等変更情報の伝達方法等)	○ 内容確認済	
		本社、日用工場 産業廃棄物	廃油・廃アルカリ、廃プラ、木くず、混合廃棄物など	○	マニフェストの交付 交付義務	・適合マニフェストを使用	○ 適用マニフェスト使用	
				○	・マニフェストの交付 ・回収・照合(発行後B2, D票90日E票180日以内) ・A, B2, D, E票保管(5年間) ・未回収戻り票の報告 ・「交付状況報告」(前年度実績、毎年6月30日まで)	・回収口の管理、A票の照合欄チェック。 (回収期間内に返送され、法定事項記載確認済み) ・措置内容等報告書(知事への報告)	○ 交付状況を管理している。	
				○	・「処理困難通知」の受理	・通知受理日より30日以内に規則様式第4号による措置内容等報告書(知事への報告)	- なし	
廃棄物の処理	本社、日用工場 廃棄物	保管	○	野外焼却の禁止		○ 問題なし		
			○	積み上げ高さの厳守、雨、風、悪臭発生に対する養生、保管場所の掲示板設置	保管場所設置看板表示内容、看板の大きさ規定あり(縦横60cm)	○ 看板設置確認済		
水質汚濁防止法 Water Pollution Control Law	事故時の処置	本社 重油タンク 日用工場 油類倉庫	公共用水への漏洩 地下への漏洩	○	・漏洩した油類の回収 ・原因事への届出	・届出書	○ 漏洩なし	
浄化槽法 Septic Tank Law	トイレ・炊事等	日用工場 浄化槽(合併処理浄化槽)		○	・保守点検 3回/年 以上 ・法定点検 1回/年	・記録の3年間保管	○ 市民セレクト、石川県浄化槽協会にて実施	
高圧ガス保安法 High Pressure Gas Safety Law	LPガスの保管	日用工場 LPガスタンク	第二種ガス(不活性ガス以外) 100m ⁴ 以上	○	・県知事への届け出 ・取扱責任者の選任 ・バルブ等の方法表示 ・定期的な自主点検 ・従業員への教育	・届け出書	○ 問題なし	
フロン回収破壊法 Fluorocarbons Recovery and Destruction Law	廃棄時の処置	本社、日用工場 冷媒用フロンの回収・破壊の措置	パッケージエアコン	○	・機器の廃棄を委託された場合「委託確認書」の受理と専らしの保存及びフロン回収業者の「回収証明書」の受理と専らしの保存(3年)	「事前確認書」(交付年月日・元請業者名等・発注者名等・機器設置有無の確認結果)	○ 廃棄なし	
フロン排出抑制法 Fluorocarbons Emission Control Law	フロン類の管理適正化	本社、日用工場の エアコン管理	パッケージエアコン	○	機器が正常に機能しフロンガスが漏れていないことを確認する 保	保守点検記録の保管	○ 3か月毎に保守点検実施	
資源有効利用促進法 Law for Promotion of Effective Utilization of Resources	廃棄時の処置	本社、日用工場 資源回収	パソコン	○		・処置の記録	○ 問題なし	
PRTR法 PRTR Law	特定化学物質の使用	日用工場 第2種特定化学物質	クリソボン、ファインテックス等	○		・特定化学物質の使用量、移動量を業計し経済産業大臣に報告	・届け出書	○ 4月に報告済み
消防法 (危政令) Fire Service Law	危険物の取扱い	本社：重油 日用工場：有機溶剤 危険物の貯蔵・取扱いの基準	指定数量とは、 第1石油類 3リットル等： 200L 780L等、400L 第2石油類 灯油、軽油等： 1000L 第3石油類 重油等2000L 第4石油類 シンナー油等 6000L	○	小松市火災予防条例)で定める。 ・保管庫の設置 ・保管庫の定期点検・届出 ・工場内の保管数量の制限	・危険物の貯蔵・取扱管理記録	○ 適正に管理されている	
労働安全衛生法 有機溶剤中毒予防 Occupational Safety and Health Law	有機溶剤の取扱	日用工場 有機溶剤	コーティング作業	○	・作業主任者の選定 ・換気装置の設置 ・マスクの使用 ・作業環境測定(6ヶ月以内ごとに1回) ・健康診断(6ヶ月以内ごとに1回)等 ・記録の保存	環境測定結果評価表 健康診断結果表	○ 作業環境測定(R6/5月、R6/10月)実施 健康診断(R6/4月、R6/10月)実施	
労働安全衛生法 化学物質の有害性等の表示に関する指針 Occupational Safety and Health Law	特定化学物質の使用	日用工場 特定化学物質 有機溶剤	コーティング作業	○	・MSDSの取り寄せ ・Kintone化して保管 ・リスクアセスメント実施		○ 問題なし	
騒音規制法 Noise Control Law	燃焼機の運転	本社工場 第3工場	搬入作業	○		騒音規制法で定める第4種区域(小松市指定)	測定記録	○ 問題なし
水銀廃棄物ガイドライン (平成29年6月環境省) Mercury Waste Guidelines	水銀使用製品廃棄物が発生する改修・解体工事	廃蛍光灯ランプ、HIDランプ	現場保管、運搬、処理の委託	○	・保管箱替えは混合しないよう仕切る ・収集運搬での破砕禁止、他の物と区分 ・処理委託にあたっては、他の産業廃棄物同様、委託基準を順守		○ 問題なし	

地方条例							
ふるさと石川を守り育てる条例 Hometown Ishikawa Preservation and Development Ordinance		本社、日用工場 一般廃棄物	休職中		○	空き缶等の投機の禁止	○ 問題なし
小松市廃棄物の適正処理条例 Komatsu City Ordinance on Proper Waste Disposal		本社、日用工場 一般廃棄物	一般廃棄物の廃棄		○	・一般廃棄物収集運搬許可 事業者へ委託 ・条例で定めた手順に従って 分類 ・認可証の確認	○ 問題なし
同意するその他の要求事項							
発注者からの要請 customer request	・使用物質の調査・報告	・顧客からの依頼	・REACH規則 ・RoHS指令 ・RaV指令		○	・使用状況の調査と報告 ・報告書	○ 問題なし
	・資材等の搬出人	・発注者からの要望で同意するもの	・梱包作業		○	・エコ梱包の実施	○ 問題なし
現在は適用されないが、将来適用される可能性があり監視が必要な環境法規制等							
工場緑化法 Factory Greenery Law	工場の緑化	工場緑化	敷地面積9,000㎡以上または 建築面積3,000㎡以上の 規模の工場または事業場 に適用される。	×		・届け出 ・25%以上の緑化の実施	- 対象外

8. その他の取組

弊社の主力商品である工業資材用縫糸は着色が必要なものが多いのですが、その着色には通常、非常に環境負荷の高い（水資源の使用、加温のための熱源による CO2 排出、汚染水の処理に掛かる環境負荷などの負荷がある）染色加工が用いられます。

弊社では、弊社の樹脂調合技術を用いて樹脂加工工程で着色する方法にて染色工程を行わず、環境に配慮しております。

9. 総評

本年度は外注工場の内製化もあり電力使用量は増加し電力による CO2 排出量は微増したが、LPG 使用量の減少により CO2 削減をすることができました。

しかしながら一部工場の加工機不具合がありロス率は大幅増加、廃棄物の発生も増加となりました。

今後も引き続き発生原因の大きなものから集中的に発生予防策を講じ、特にロス率低減に注力し不良品を減らすとともに、生産効率の更なる向上を目指して活動を強化して行く所存です。

以上